Ueda

上田市民と行政をつなぐ、お役立ち情報紙

広報うえだ
8月号
2021（令和３年）
No.342

写真　上田女子短期大学「別所がぁる」&アフタフ･バーバン信州（５ページ）

10月からスマホなどで簡単納付できます
市税などのキャッシュレス納付 …… 6

上田文化会館大ホールが新しくなりました
上田文化会館リニューアルコンサート… 8

64歳以下のワクチン接種、保険料（税）の減免など
新型コロナワクチン　お知らせ第５弾… 34

新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントや会議などの内容が変更になる場合があります。
ホームページなどをご確認いただくか、各担当までお問い合わせください。

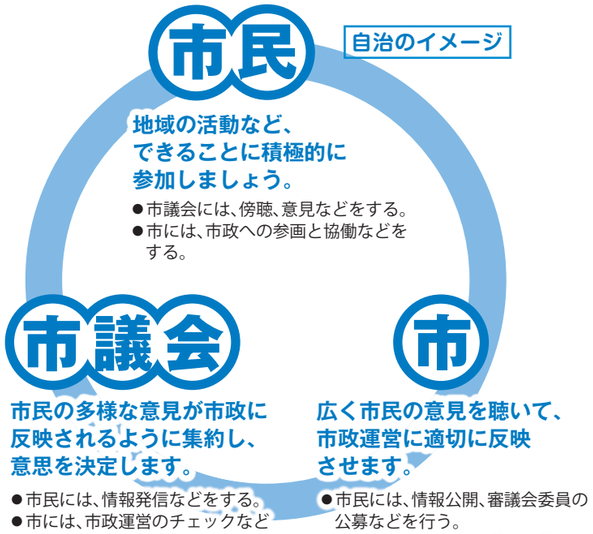
特集 ともに創ろう！上田の未来

少子高齢化や環境問題、防災など現代社会が抱えるさまざまな課題は、それぞれの地域の特性に合わせたやり方で解決していくことが求められています。市の将来都市像「ひと笑顔あふれ　輝く未来につながる健幸（けんこう）都市」を実現するためには、市民の皆さん一人ひとりの力が必要です。住みやすい上田市をつくっていくために〝まちづくり〟についてみんなで考えてみましょう。

問 市民参加・協働推進課 ☎75・2230

「まちづくり」は誰が行うの？

市内で生活している人、学んでいる人、働いている人や事業所、行政など、さまざまな方や組織が行います。市民・市議会・市（行政）の3者が、それぞれの視点から見えてくる課題を解決するために、協力して役割を果たし、左の自治のイメージのように、3者が互いに作用することで、よりよいまちづくりが進んでいきます。



「まちづくり」って何？

まちづくりとは、〝誰もが住み続けたいと思う魅力あふれる豊かなまち〟にしていくための活動です。例えば、自治会の活動、NPOの市民活動、事業所の地域貢献、個人的な活動などです。

市は、上田市自治基本条例の基本理念（第4条）で定める、「参加と協働による自治の推進」と「地域内分権による地域の自治の推進」に沿って、市民がまちづくりに自主的・自立的に取り組めるように、連携や協力をしながら進めています。

上田市自治基本条例の基本理念（第4条）について

●**参加と協働による自治の推進**とは、市民の皆さんがまちづくりに参加し、市民・市議会・市の3者がそれぞれの役割分担のもと協働しながら活動することです。

●**地域内分権による地域の自治の推進**とは、自治会や地域で活躍する各種団体、地域住民が一体となって地域課題の解決や地域の個性・特性を活（い）かしたまちづくりに取り組むことで、地域の自治を推進します。

まちづくりのキーワード

上田市自治基本条例

自分たちで住みやすいまちをつくっていくための〝ルール〟が上田市自治基本条例です。この条例は、上田市の自治の最高規範として位置付けられています。

市民

住民のほかに、上田市内で働いている方や学生の方など市外から来ている方も、上田市自治基本条例の中では市民に含みます。

参画

一般的な参加から一歩進めて、市の政策、施策等の企画や立案に市民が主体的に関わり、行動することをいいます。

協働

市民と市が「住み続けたい」と思う地域社会を築くために、それぞれの役割や責任のもとで、お互いが尊重し、対等な関係で、協力し合っていくことをいいます。

自治

自らの地域を自らの意思と責任において治めることをいいます。

地域協議会

市内9地域に設置した地域住民から構成される市の附属機関です。地域住民などの意見や要望を集約して行政に反映させたり、地域の重要事項の決定に意見を述べ、地域課題の解決に向けた調査研究を行うなど、それぞれの地域の発展を図るための活動をしています。

上田市民のまちづくり

魅力あるまちをつくるために、自治会や事業所、NPO法人などの市民活動団体や個人がさまざまな活動をしています。
皆さんの活動の積み重ねが上田市の未来を創っています。

日常生活の中で買い物にエコバックを使うことも、よりよい生活環境に向けたまちづくりの1つです。

市民参加・協働推進課 水崎

個人的な活動

毎朝、続けている見守り活動（染屋地区）
長谷川忠勇（はせがわただお）さん

事業所の地域貢献

市道脇の花壇（かだん）整備（赤坂上）
「㈱みすず綜合コンサルタント」

NPOの市民活動

学習支援活動（こどもレストラン きらっと）
「NPO法人子育て応援団 ぱれっと」

自治会の活動

地域の河川清掃活動（瀬沢（せさわ）川）
「岩下自治会」

まちづくりを自分事として考えてみませんか

市民参加・協働推進課 芳池

まちづくりは、私たち市民が自分の事として取り組んでいくことが重要です。それぞれが協力しあいながら、上田の未来を創るために、まずは一人ひとりができることから始めてみましょう。

上田市自治基本条例はこちら

～次のページで、地域で活躍している団体を紹介します～

上田市自治基本条例の見直し

5年先、10年先も上田市が住みやすいまちであることを願い、平成23年4月に施行された条例の内容を再検討しました。

上田市自治基本条例は社会情勢や国の動向などを踏まえ、5年を超えない期間で見直しすることになっています。令和2年度に、「上田市自治基本条例検証委員会」において、条例の見直しを行い、その結果を提言書にまとめました。

左から、土屋市長、南雲（なくも）会長、中村副会長
▶市長に提言書を手渡しました（令和3年3月4日）

提言は、「社会情勢の変化は見られるものの、条文改正の必要性は認められないが、新たな社会情勢に対応するために、条例を解説した「逐条（ちくじょう）解説」の内容を見直す必要がある。さらに、人権尊重や子どもの権利に関する取組を一層推進する必要がある」といった内容です。現在、新しい逐条解説の発行準備を進めています。

特集 市民が主役のまちづくり

いろいろな視点や方法で、地域で活動している方たちを紹介します。

自治会でまちづくり

まちづくりを行う地域の基礎的単位として、市内には241自治会があり、各地域の特性を活かしながら、資源ごみの回収、道路側溝・河川の清掃、高齢者宅への安否確認、育成会活動などの生活環境の改善や地域の福祉向上を目指して活動しています。

飯沼自治会里山環境整備プロジェクトチーム

事務局　芦田（あしだ）　昌貴（まさき）さん

「ふるさとの環境は自ら守る」との思いから平成29年４月に発足。現在、飯沼神社林を中心として17名が活動中。主な活動は、沢筋の保全やキノコの原木・まきの生産、里山公園整備など。
活動には「長野県森林づくり県民税」を活用しています。

地域に根付く活動を続けたい

４～５年前に飯沼自治会の主要な用水路や河川に土砂が急に激しく流れ込むようになり、なぜだろうと確認に行くと、山の荒廃と同時に斜面の沢筋が崩壊していることが原因だと分かりました。里山が本来持っている森林としての防災機能や水源がなくなってしまうことを危惧（きぐ）して、平成29年にプロジェクトチームを立ち上げました。

自分たちで守る意識を持つ

自分の目で、自分たちの山がどうなっているのか確認することが大事。人の手入れがないと、山の地面に日差しが届きにくくなることで、下草が生えにくくなり、雨が降れば沢筋が崩落してしまうこともあるんです。平成29年に崩落した沢筋には、里山の間伐材を使い、土留（どど）めを行いました。それ以降は、沢筋からの土砂の流出を防ぐことができました。自分たちの生活を守るためにも地に足を付けて活動していきたいと思います。

土留めの完成

崩落した沢筋に間伐材を使用している様子

住民自治組織でまちづくり

地域協議会の提言により発足し、一定区域を範囲として、各種団体が参画・連携・協力し、防犯・防災や地域福祉などのひとつの自治会だけでは対応が難しい課題の解決や地域の特色を活かしたまちづくりに取り組む実働組織です。

住みよい武石をつくる会

会長　児玉（こだま）　卓文（たかふみ）さん

「いつまでもここで暮らせる武石、住んでよかった武石を目指したい」との思いから平成29年３月に発足。武石地域の全住民・事業所などで構成、自治会や活動団体から選出された約100名（６つの部会）で成り立っています。

地域を点と点ではなく、面として広く捉える

武石地域の人口は、現在約3300人。人口が減少し続ける中でも、子どもがのびのび成長し、住民が人生を全うできる地域を維持するために、武石の良さを再認識するとともに、武石地域以外の方にも広げていきたいです。

住みよい武石をつくる会の６つの専門部会が連携し、三十数年前の小学生が作った地域カルタに読まれる地を巡る〝たけしカルタ歴史さんぽみち〟や新緑・紅葉の季節にはトレッキングなどを企画したり、里山の景観を守ったりと地域全体の資源を活かして魅力を再発見し、守り伝え続けています。

住んでよかったと思えるように

現在の武石の住民が住んでよかったと思えることが大切だと思います。武石にあるスポーツ協会や地域おこし協力隊、関係団体とも連携しながら地域全体でできることを一人ひとりが考えて笑顔が輝くまちにしていきたいです。

武石地域の約75%の方が加入しているエリアトーク（情報伝達システム）に録音している様子

熊沢峠で行われた里山調査トレッキングの様子

「住みよいたけし」２か月に１度発行。武石地域全戸と事業所、公共施設に配布しています。

NPOでまちづくり

県内では988、市内では76のNPO団体がさまざまな社会貢献活動を展開中。活動テーマは、まちづくり、災害時の援助、社会教育活動、自立支援、国際交流活動など多岐にわたっています。

ほこほこコネクト

理事長　宮下（みやした）　俊哉（としや）さん
（真田山長谷寺 住職）

真田地域を拠点に、平成20年に発足。現在、30～60代の約60名が活躍中。活動内容は、防犯パトロールや地域の学校のお手伝い、新（まき）の会、遊休（ゆうきゅう）農地を活用した蕎麦（そば）・唐辛子作りなど。興味のある方は、問い合わせください。

問　ほこほこコネクト理事長（宮下）
☎090・2661・3941
✉ syunsai41@gmail.com

活動情報はこちら

温かい心の連鎖

ほこほこコネクトの名前には、ほこほことした温かい心がつながっていくように（英語でコネクト）との思いが込められています。心温かく安全・安心な暮らしを続けられるように、無理せず気楽に活動しています。防犯のために、青パト（青色回転灯装備車）で真田地域内を巡回しています。事件や事故が起きないことが一番ですが、未然に防ぐために大事な活動だと思います。また、令和元年東日本台風で被害が出た時には、「地域で困っている方がいれば、支えたい」との思いで、会員以外の方も含めて、がれき掃除や倒木処理のお手伝いなどを行いました。いろんな地域で支え合いの活動が広がればいいなと思います。

やらされるのではなく、自主的に

運営面でかなり厳しいこともありますが、会員たちは活動を通じて地域のためになっていると感じている人がほとんどです。今後は、子どもや地域の居場所づくりのために〝子ども食堂〟などを計画しています。地域のためにいろんな方が関わりを持ってくれればうれしいです。

遊休農地の草を食べるヤギの飼育（めーめー草食べ隊）

地域の安全を守る青パト（週２～４日実施）

市民活動団体でまちづくり

地域課題の解決に向けて自発的に活動する組織のことで、市民が地域にあるさまざまな課題やテーマを掘り下げ、創意工夫により、不特定多数の利益の増進に寄与しています。

上田女子短期大学
別所がぁる

昨年春にできた学生有志の団体、現在15名が別所温泉や別所線の活性化を目指して活動中。今年４～７月には別所線オリジナルデザイン封筒入りマスクを配布しました。

活動情報はこちら

また来たい！と思ってもらえるように

代表
登内（とのうち）　心優（みゆ）さん

今年７月には、できることが限られる中で、子どもたちが参加して笑顔になれる企画〝忍者修行〟を開催しました。これは別所温泉街で気付かれないように特定の人（大人の忍者）を子どもが尾行して街中を散策するというもので、子どもは忍者の世界観に入り込んでいました。保護者の方からは、また別所温泉に来たい！などの声があり、うれしく思います。子どもたちの良い思い出になったと感じました。

これからも、「楽しかった」で終わりではなくて、また別所に行きたいと思える企画を考えていきます。

別所線オリジナルデザイン封筒入りマスク

忍者から巻物を手渡された子どもたち

上田女子短期大学
うえだ乙女

昨年夏にできた学生有志の団体、現在19名が活動中。上田の良さを再発見してもらえるように、百人一首を作成。絵札の文字や絵は全て手書き。今年は市内の全小学校に配布します。

活動情報はこちら

百人一首で上田の良さを届けたい

代表
宇羽野（うばの）　陽（みなみ）さん

上田西高等学校と一緒に開催している〝うえだ七夕文学賞〟の過去の応募作品やうえだ乙女が詠（よ）んだ作品の中から上田にまつわる歌を選びました。書道の得意な学生が文字を、絵の得意な学生はスマホで絵を作成し、約半年かけて完成させました。昨年配布した中学校の生徒さんや先生からも好評で本当にうれしいです。

今後は、「上田電鉄別所線開業百周年」とうえだ乙女百人一首の百をかけて、別所線15駅周辺の風景や文化などを感じられる短歌と絵を制作し、11月頃別所線車内に展示します。電車に乗りながら明るい気持ちになってほしいです。

スマートフォンで絵を描いている様子